

技術部企画「こども未来プロジェクト」出展報告

著者	嶋田 陽子, 水野 保則, 上田 瑞恵, 宮澤 俊義, 井上 直己, 森内 良太, 剣持 太一
雑誌名	技術報告
巻	19
ページ	43-46
発行年	2014-03-10
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00008041

技術部企画「こども未来プロジェクト」出展報告

○嶋田陽子¹⁾、水野保則²⁾、上田瑞恵³⁾
宮澤俊義⁴⁾、井上直己⁴⁾、森内良太⁴⁾、剣持太一⁴⁾
(技術部 浜松分室¹⁾ものづくり地域貢献支援部門
²⁾技術長、³⁾教育支援部門、静岡分室⁴⁾教育研究支援部門)

1. はじめに

本学技術部の企画として、一般市民向けイベント「こどもみらいプロジェクト夏まつり in エコパ」のテーブルサイエンスコーナーへ参加した。このテーブルサイエンスコーナーは、県内の中・高校、大学や諸団体が実験や工作などの体験を子供たちに提供するものである。我々はこの中で、紙ブーメランを作製する科学的な工作を出展した。

この企画出展の目的は2つである。それは、子供たちに科学のおもしろさや楽しさを伝え、地域社会に貢献することと、技術職員同士の交流・活性化である。

本学技術部はこれまで地域貢献活動もそれぞれの地域で行っており、分室を超えて技術職員独自の理科支援イベント等を行うことがなかった。今回の出展は静岡・浜松の中間地点である袋井市で技術職員が集まり、互いの能力を共有することである。本報告では出展内容、成果、反省、今後の出展に向けての課題等について紹介する。

2. 出展内容

2.1 イベントの詳細

出展イベント

「こどもみらいプロジェクト夏まつり
in エコパ」
テーブルサイエンスコーナー

出展内容 「紙ブーメランを作ってあそぼう！」

主催 静岡新聞社・静岡放送

後援 静岡県、静岡県教育委員会、袋井市、
掛川市、袋井市・掛川市教育委員会

開催日時 2013年7月6日(土曜日)

10:00~16:00

2日間開催のうち1日のみ参加

場所 エコパアリーナ(袋井市愛野)

出展来場者 約155人(参考:会場全体 2日間 約1万6千人)

出展条件 対象団体は企業を除くNPO法人など
会場内で簡単な実験や工作を指導できること

備考 材料費や交通費は自己負担、
主催側から長机2つ、いす10脚提供、電源使用可能



図1 提供された場所

2.2 イベント実施のきっかけ

本学技術部は全学組織化されて2年目である。これまでは各学部で業務を行っており、部局の違った技術職員が直接会って業務を行うことは少なかった。今後組織化された技術部が発展していくためには、技術の向上に加えて技術部のアピール行動として技術部独自の地域貢献も重要であると考えられる。しかし、技術職員は静岡市、浜松市などキャンパスが離れているため、合同でイベントを実施するには移動に時間がかかる等の問題がある。そこで今回はほぼ中間地点の袋井市で実施することとなった。

2.3 当日の様子

7月6日の「テーブルサイエンス」コーナーには、8ブースの出展があり、その内の4ブースが静岡大学からの出展であった。我々の出展内容は、子どもたちを対象とした「紙ブーメランを作ってあそぼう！」であった。具体的には、来場者がテーブルに座り工作用紙、はさみ、ホッチキス、セロテープなどの身近な道具でブーメランを作製し、完成したら空いているスペースで投げ方を指導した。紙ブーメランも投げ方に工夫が必要だが、事前練習ではほぼ飛ばした元の位置に戻るよう飛ばすことができた。



図2 作製した紙ブーメラン

開場してから1時間もしないうちに会場は大盛況であった。我々の出展も多くの来場者に来ていただき、ブーメラン作製待ちに行列ができる程であった。来場者の対象年齢は小学生と想定していたが、メインイベントの内容により幼児が多かった。はさみなど道具がうまく使えない子供は保護者の方と一緒に作製していただいた。幼児には細かい部分をはさみで切るところは難しかったようだが、うまく使いこなしている幼児もいた。



図3 会場の様子

2.4 参加者の感想

普段は大学生の実習指導を行っており、普段接することがあまりない幼児～小学生に一日中工作指導をするのは大変であったが、喜んで持ち帰ってくれている姿を見ると、充実感があつた。道具を使ってものづくりをする機会が減っている中、このようにいろいろな道具を利用して工作するイベントはいい機会であると感じた。

その他は、けがなく終わることができてよかった、忙しかった、今までの大学生相手とは違う教え方になった、年齢によってできる範囲が異なっている発見があつたなどであった。

3. 成果と反省

3.1 成果

地域に対しては、一般市民を対象とした事業に参加することで地域社会に貢献することができた。場所も袋井市で静岡大学の地域貢献活動が少ない地域であったのでいい機会となった。

当日は、多くの子供たちに紙ブーメランを作って遊んでもらうことができた。このことにより、子供たちに科学の楽しさや不思議さ、ものづくりの面白さを体験してもらうことができた。

技術職員に対しては、学外において技術部独自の事業を展開することにより、企画・運営のノウハウを習得することができた。また、普段あまり交流のない静岡分室と浜松分室の技術職員が、一緒になって1つの事業を行うことで、分室を越えた情報交換ができた。

多くの子供たちにブーメランの作り方や投げ方を指導することで、技術職員個々の科学コミュニケーション力が向上した。

私にとっては一般親子向けの地域連携活動はテクノフェスタ以来であった。来場者が殺到した場合の対応方法、来場者が来ないときの客寄せ方法などは経験がなかったので、静岡分室の方々の手際よい来場者誘導は勉強になり、今後のイベント出展等で活かしていければいいと感じた。

3.2 反省

技術部としての広報・宣伝活動については、一般市民を対象とした技術部企画を学外で行ったが、十分でなかった。「技術部って何だろう？」と疑問を感じる来場者が何人かいらっしやったが、指導対応中のため答えることができず、一言で説明するのも難しいと感じた。このような事業は、技術部を知ってもらうための絶好の場であり、技術職員のモチベーション向上や将来の人材の確保にもつながる。今後はのぼりや、紹介パンフレットなどで技術部の宣伝をしていくのがいいと感じた。



図4 当日の様子1

理科支援については、「テーブルサイエンス」の「サイエンス」部分をもう少し増やし、ブーメランを製作して飛ばすのみでなく、原理など物理分野を説明するパネル等があればより理科支援のイベントになり、物理に興味を持てるきっかけになるのではないかと思った。

リスクマネジメントについては、静岡新聞社との事前打ち合わせにおいてブーメランを投げるスペースを確保してもらう予定であったが、実際にはブーメランを投げるスペースが十分に確保されていなかったため、投げたブーメランが他の来場者に当たってしまう場面もあった。今回はけがなく終わることができたが、事故はいつ起こるかわからない。会場内の場所の確保などリスクマネジメントについてもしっかりと考える必要がある。

今回のイベント出展において、浜松の技術職員は当日のみ参加だったので今後は準備から片付けまで積極的にやっていきたいと考えている。

3.3 今後の出展に向けて

今回のような理科支援の地域貢献イベントは静岡分室と浜松分室職員間の交流、技術部のアピールとしてぜひ今後も続けていきたいと考えている。今回の出展イベントは主催側からの交通費支給等がないため、技術部経費から旅費、材料費等の予算を獲得した。来年度も出展の場合は、技術部企画等での予算獲得が必要である。

出展募集から申請の締め切りまで期間が短いため、事前に準備しておく必要がある。他団体と出展内容が同じ場合、変更を依頼されることがある。あらかじめ出展案を2～3案用意しておき、すみやかに申請することが望ましい。

出展内容について、今後は徐々に技術職員個々の得意分野を活かした内容になっていくと、技術部としての個性が発揮された地域貢献になるのではないかと考えられる。オリジナルな内容を作り出すのは難しいが、業務の中にもアイデアを見つけていければいいと考えている。また、来場者からの簡単なアンケートも実施して改善していくとよりよい地域貢献イベント出展になっていくのではないかと考えている。



図5 当日の様子2



図6 当日の様子3

謝辞

今回のイベントに関しまして、貴重な体験をさせていただきました。参加いただきました技術職員の皆様、申請準備等していただき、御礼申し上げます。